

# お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

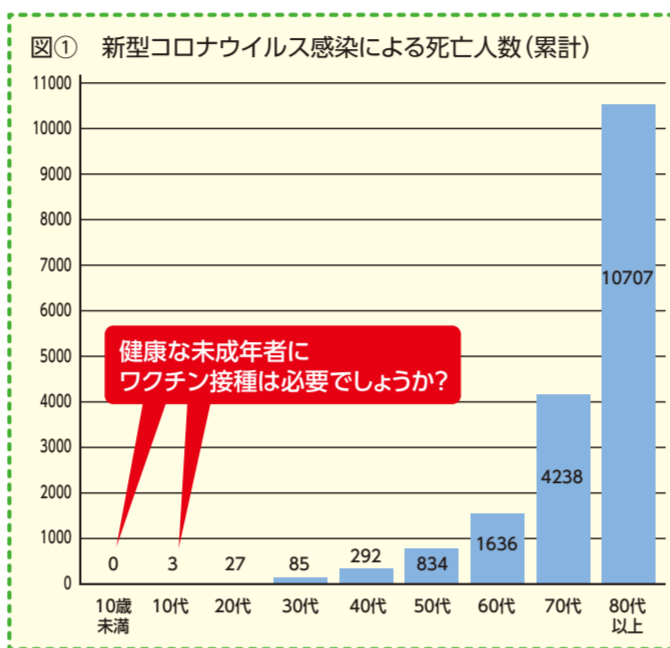
3月から12歳未満の子どもの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

# 厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

**未成年者のワクチン接種後 重篤者341人・後遺症8人・死亡者5人**

未成年者（0歳〜20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか？厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染はこれまでに3人いるが、その内の2人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり「これまでコロナ感染で死亡した健康な未成年者はただの一人もいない。重症化もほとんどない。」

ところが未成年者がそもそも必要ないはずのワクチンを打つことにより、多くの重篤者・命の危険が切迫している患者の「と」や死亡者が出てしまっている。昨年10月30日には13歳の少年がファイザー製ワクチンを接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没しているところを発見された。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1525人にも上り、そのうち**



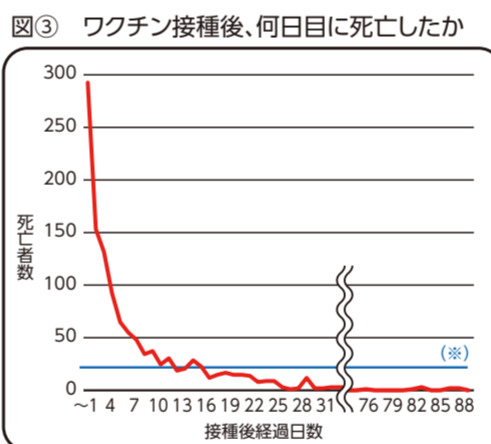
※新型コロナウイルス感染症の国内発生動向(令和3年12月21日24時時点)

しかしその目的のために、子どもや若者連に自らの命や健康を賭かせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南出市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

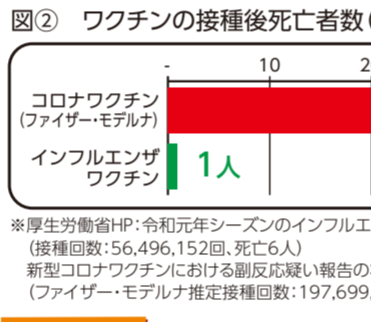
**ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない？**

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、12月17日時点で**1430人**（ファイザー製1365人・モデルナ製65人）に達している。しかし**ワクチン接種会場で突然死亡した場合**も含めて、厚労省は一人として**因果関係を認めない**。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り「**接種が原因で多くの方が亡くなったという**

ことではありません」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にはたまたま大勢の人が死亡するの、インフルエンザワクチンとは関係なく、少なからず死亡しているのか。その理由は「**たまたまの死亡**」ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そう考えると、コロナワクチンの接種そのものが



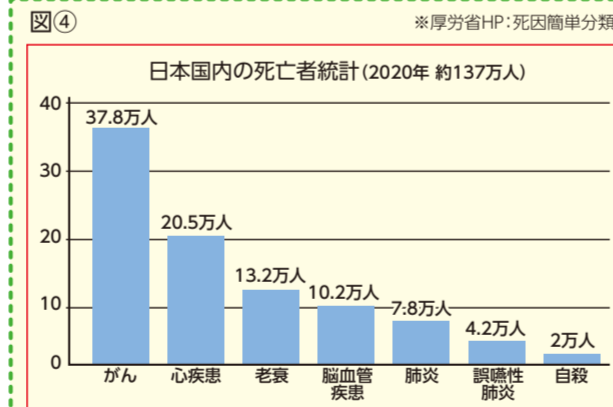
厚生労働省HP「新型コロナウイルスワクチン接種後の死亡として報告された事例の概要(令和3年12月24日)より作成。接種当日(0日)の死者数は、接種後の経過時間が短いため1日に含めて集計



※厚生労働省HP「令和元年シーズンのインフルエンザワクチン接種後の副反応疑いの報告について(接種回数:56,496,152回、死亡6人) 新型コロナウイルスワクチンにおける副反応疑い報告の状況について(ファイザー・モデルナ推定接種回数:197,699,258回、死者1,402人/12月5日時点)

**POINT!**  
厚労省HPに掲載されている**コロナワクチン3つの事実**  
①インフルエンザワクチンと比べて、**接種後死亡が圧倒的に多い。**  
②接種した翌日までに**死亡した人が圧倒的に多い。**  
③接種後死亡者の死因は、**血栓症や循環器系障害が圧倒的に多い。**

**推測** 「ワクチン接種」が原因で死亡した人がいるのでは？



※厚生労働省HP「死因別単分類別みた性別死亡数より作成



※厚生労働省HP「新型コロナウイルス感染死亡【累計】(2021年12月21日まで)

**ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明**

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことはありません」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所（NIH）が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の増加などの症状だけでなく、閉

経したが生理が再開したという副反応まで報告されている。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えてきている。ワクチン接種に関しては、他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起

ついている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「臨床試験中の実験試薬」だからだ。それは人体への長期的な影響が誰にも予測できないことを意味する。

河野太郎元ワクチン担当大臣は、自身のブログで「試験が省略されることなく実施され、長期の安全性について特段の不安があるというところはありません」と断言している。ところが事実は違っていて、厚労省は「審議結果報告書」の中で「**接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である**。」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまっただけで、厚労省も今後数年に渡って何が起るかわからないまま接種を推し進めているのが現状だ。

また、ワクチンが生産機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。ファイザー社が厚労省に提出している「薬物動態試験の概要文」には、ワクチンの成分

が確実に卵巣や精巣自体にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「**不妊にならない**」との記載は「**現時点では、ワクチン接種が不妊の原因にならない科学的な根拠は報告されていません**。」と書いてあるだけだ。

これについて前出の井上康大阪府立大学名誉教授は「ワクチン接種が始まったばかりのため、不妊の根拠が報告されることは、これから数年〜数十年後のことである。何らかの異変

や有事事が起こる可能性は否定できない。臨床試験中の実験試薬とは違うものであり、動物実験で危険性が示唆されている治療薬を生産世代に接種するとは、極めて非常識である」と警告を鳴らし続けている。その上で「**接種中止を求め、名目上の医師3,000人が連名でワクチン接種中止を求め、厚労省に提出している**。このように悲しむやりにくい思いをしている親御さんが実際に何人もいますが、これは決して他人ごとではない。

接種後に突然亡くなったり重大な健康被害に遭ったり後遺症が残ったりした、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまっている人は多い。また「因果関係なし、不明」という発表に納得できないだろうか？接種後に

接種後に突然亡くなったり重大な健康被害に遭ったり後遺症が残ったりした、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまっている人は多い。また「因果関係なし、不明」という発表に納得できないだろうか？接種後に



**本当に必要ですか？**  
**子どもへのワクチン**

(賛同団体) 岡山・倉敷新型コロナウイルス感染対策市民審議会

「簡単!10分で分かる 新型コロナウイルスの危険性」  
井上正康先生講演会動画

おすすめ最新書籍 (参考文献)  
まんがで分かりやすく解説!  
「ニューニクス宣言SPECIAL コロナ論4」(扶桑社)  
著者:小林 よしのり (2021年11月18日)

ここでは、ワクチンの「危険性」の一部を紹介しました。掲載できなかった、その他の詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 78,354,607円(11月17日16時時点)

右QRコードからご支援いただけます。▶

<https://jccovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記QRコードよりご意見・ご感想をお寄せください

Eメール [mail@dbank.jp](mailto:mail@dbank.jp)

株式会社ゆうネット  
新型コロナウイルス関連情報発信センター  
代表取締役 堤 猛 (ご意見はメールよりお願いします。)  
福岡県福岡市中央区天神4-1-17 2F TEL 092-235-2470

※ここでの内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。